

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】令和6年10月23日(2024.10.23)

【公開番号】特開2023-59410(P2023-59410A)
【公開日】令和5年4月27日(2023.4.27)
【年通号数】公開公報(特許)2023-079
【出願番号】特願2021-169401(P2021-169401)
【国際特許分類】
A 6 3 F 7/02(2006.01)
【FI】
A 6 3 F 7/02 3 1 3

10

【手続補正書】
【提出日】令和6年10月13日(2024.10.13)
【手続補正1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項1】

遊技球が入球可能な入球領域と、
前記入球領域に向けて遊技球を転がす球通路と、
前記入球領域を遊技球が入球可能に開放する開放状態および入球不能に閉鎖する閉鎖状態間で移動操作される開閉部材と、
前記入球領域の周縁部のうち前記開閉部材が開放状態から閉鎖状態に移動操作される場合の移動方向の側に位置するものであって、前記開閉部材の先端面が閉鎖状態で対向する壁面と、
前記入球領域に対して前記球通路を通して転動する遊技球の流れの下流側に設けられ遊技球が入球可能にされた入球領域と、を備え、
前記開閉部材の先端面および前記壁面の少なくとも一方には当該先端面および前記壁面間の距離を前記球通路に沿って転動する遊技球の流れの上流側から下流側に向けて大又は小とする距離調整部を設けた
ことを特徴とする遊技機。

30

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0002
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0002】

40

遊技機には開閉部材を開放状態および閉鎖状態間で移動操作することに応じて入球領域を開閉する構成のものがある。

【手続補正3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0003
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0003】
【特許文献1】特開2012-101081号公報

50

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

上記遊技機の場合には開閉部材の先端面と当該先端面に対向する壁面との間に遊技球が挟まる虞がある。この球噛みは遊技球が入球領域に入球しようとしているタイミングで開閉部材が開放状態から閉鎖状態に移動操作された場合に生じるものであり、球噛みが放置されたままの状態となることは遊技機として好ましくない。

10

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、球噛みを防止することが可能な遊技機を提供することにある。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項 1 に記載の遊技機は、
遊技球が入球可能な入球領域と、

20

前記入球領域に向けて遊技球を転がす球通路と、

前記入球領域を遊技球が入球可能に開放する開放状態および入球不能に閉鎖する閉鎖状態間で移動操作される開閉部材と、

前記入球領域の周縁部のうち前記開閉部材が開放状態から閉鎖状態に移動操作される場合の移動方向の側に位置するものであって、前記開閉部材の先端面が閉鎖状態に対向する壁面と、

30

前記入球領域に対して前記球通路を通して転動する遊技球の流れの下流側に設けられ遊技球が入球可能にされた入球領域と、を備え、

前記開閉部材の先端面および前記壁面の少なくとも一方には当該先端面および前記壁面間の距離を前記球通路に沿って転動する遊技球の流れの上流側から下流側に向けて大又は小とする距離調整部を設けたところに特徴とするものである。

上記手段によれば、遊技球が入球領域に入球しようとしているタイミングで開閉部材が開放状態から閉鎖状態に移動操作された場合には開閉部材の先端面のうち距離調整部と壁面との間に遊技球が挟まり、開閉部材の移動力の一部が遊技球を両面間から押し出す方向への分力として距離調整部から遊技球に作用するので、球噛みを防止することが可能になる。

40

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明によれば、球噛みを防止することが可能になる。

50